

平成26年度(基盤研究(S))研究概要(採択時)

【基盤研究(S)】

人文社会系(人文学)



研究課題名 宗教テキスト遺産の探査と総合的研究 —人文学アーカイヴス・ネットワークの構築

名古屋大学・大学院文学研究科

附属人類文化遺産テキスト学センター・教授

あべ やすろう
阿部 泰郎

研究課題番号：26220401 研究者番号：60193009

研究分野：人文学

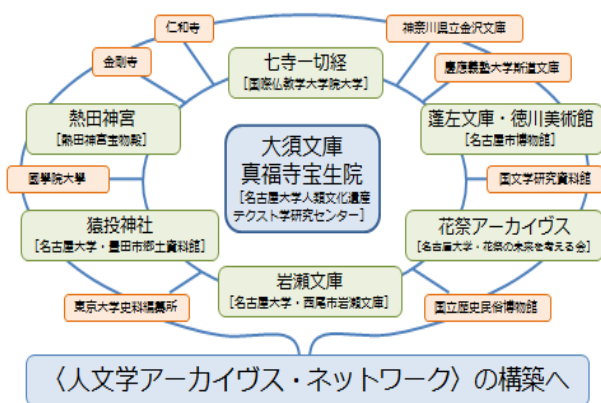
キーワード：宗教テキスト学、人文学アーカイヴス・ネットワーク、宗教遺産学、日本文学、日本史

【研究の背景・目的】

日本は、宗教に関する多彩な遺産の宝庫であり、それは古典籍から儀礼芸能など生きた伝承や空間環境にまで及ぶ。日本中世文学研究のフロンティアとして、寺院経蔵をフィールドに、仁和寺守覚法親王による「御流」聖教の探査から、真福寺大須文庫の知的体系の復原に至った。一方、名古屋大学COEによる「テキスト学」構築を通じて開拓した「宗教テキスト学」の方法を用いて、これらの対象を更に包括的に価値付けるプロジェクトを開始する。日本に伝存する膨大な位相を異にする宗教テキストを、人類共通の文化遺産として普遍化しつつアーカイヴス化し、それらを相互に連絡するべく、研究従事者相互の情報の共有と交流によるネットワークの構築を目的とする。

【研究の方法】

文献学を基盤とし、図像と儀礼の次元を統合する、人文学を横断する超領域融合的な研究により、宗教テキスト遺産のアーカイヴス化を介して、その普遍的価値を明らかにする。その実践計画および組織は以下のとおりである。



図：中部地域を中心とする
アーカイヴ・ネットワーク

○歴史的に重要なアーカイブの集中する中部地域を中心に、寺社から民間まで多様な形態で伝存する宗教テキストを復元的にアーカイブス創成する探査を遂行する。そのために設立した名古屋大学文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターを拠点として、これら探査フィールドの宗教テキストアーカイブス創成の場と従事する研究者を結ぶフォーラ

ムを創設、それらの情報を共有交流しつつ、社会に向け、また国際的な研究成果の発信を行うプラットフォームとなる。

○人間文化研究機構(歴博、国文研、日文研)と大学、博物館、文庫による連携展示(「祈る、説く、舞う」と共同研究「日本儀礼テキストの世界」を推進(平成27~29年)する。

○人文学諸分野との協同連携により、図像と文芸研究を総合する主題と対象において研究成果の社会的還元のために、フォーラム(聖徳太子絵伝と絵解き文化)や展覧会(「西行展」平成29年)を開催する。

○宗教テキスト遺産およびアーカイブス創成を主題・対象とした国際研究集会・ワークショップを海外日本研究の拠点大学・研究機関・ミュージアム等で開催する。

【期待される成果と意義】

“人類の文化遺産”としての宗教テキストを、アーカイブス創成により学界のみならず社会に開かれたテキストへ再生し、意義と価値を有する公共財産として、市民が支え保存する永続的な基盤を構築する。具体的には、大須文庫の一括重文指定のための悉皆目録作成と猿投神社聖教典籍および「花祭アーカイブス」の電子アーカイブス地域公開モデルの完成を目指す。

これらを実現し、全国的・国際的な連携を推進するための「人文学アーカイブス・ネットワーク」創設の活動を開始し、発信することが可能となる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・阿部泰郎著『中世日本の宗教テキスト体系』名古屋大学出版会(2013)
- ・国文学研究資料館編『真福寺善本叢刊』第一期・第二期全二十四巻、臨川書店(1998-2011)
- ・『中世禅籍叢刊』第一・第四巻(2013、2014、刊行中)

【研究期間と研究経費】

平成26年度-30年度
139,300千円

【ホームページ等】

ホームページは2014年度中に開設
Mail: nagoya.cht.archives@gmail.com